

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	公害保健福祉事業			事業番号	011-223
担当部署名	健康福祉	局	保健所	部	保健医療課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
		寄与するKPI	無	取組の方向性	—		
			有・無	指標名	—		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—
			無	取組	—		
		有・無	指標名	—			
無	現状値	—	目標値	—			

2	関連計画				
3	事業開始年度	昭和 49 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	公害健康被害の補償等に関する法律			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	公害認定患者 1,007人	対象数	単位	
			1,007	人	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	ぜん息に関する予防薬、吸入薬、吸入器の使い方などについての保健師による指導や、インフルエンザ予防接種の費用助成により、公害認定患者の健康を回復、保持、増進させることを目的とする。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭療養指導：公害認定患者を訪問し、日常生活の指導、保健療養指導等を行う。 ・インフルエンザ予防接種費用助成：予防接種を受けた認定患者の予防接種負担金額を助成する。 			
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)				
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
	公害認定患者の障害等級の維持・軽快の割合	%		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度
			目標値	100	100	100	100
			実績値	99	99		
	達成率	99%	99%				
当該指標を選定した理由	公害認定患者の健康の回復、保持、増進を目的としたものであるため						
目標値の設定根拠・算出方法	障害等級が維持または軽快している患者の割合						
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
	家庭療養指導人数	人		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			目標値	804	772	731	
			実績値	579	672		
	達成率	72%	87%				
当該指標を選定した理由	より多くの公害認定患者への療養上の指導を行い、その健康の回復、保持、増進を図るものであるため						
目標値の設定根拠・算出方法	家庭療養指導人数						

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	公害保健福祉事業	事業番号	011-223
-------	----------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	10,023	9,448	9,896	8,891	9,665	
13 財源内訳	国支出金		0		0	
	府支出金		0		0	
	市債		0		0	
	その他 (福祉事業負担金)	3,473	1,218	7,422	2,892	7,248
	受益者負担金(使用料、手数料等)			0		0
	一般財源	6,550	8,230	2,474	5,999	2,417
14 人件費 (b)	4,790	6,890	7,040	7,040	7,020	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	14,813	16,338	16,936	15,931	16,685	

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度		事業費		うち一般財源	項目	年度		事業費		うち一般財源
	R4	決算	事業費	うち一般財源			R4	決算	事業費	うち一般財源	
16 事業費内訳	会計年度任用職員報酬	R4	決算	5,883	3,970	封筒等印刷製本費	R4	決算	16	11	
		R5	予算	6,275	1,569		R5	予算	21	5	
	期末手当 (会計年度任用職員)	R4	決算	1,218	821	通信運搬費	R4	決算	134	91	
		R5	予算	1,282	321		R5	予算	137	34	
	費用弁償 (訪問旅費)	R4	決算	30	20	インフルエンザ予防接種費用助成金	R4	決算	1,194	806	
		R5	予算	91	23		R5	予算	1,187	297	
	費用弁償 (通勤費)	R4	決算	406	273		R4	決算			
		R5	予算	656	164		R5	予算			
	消耗品費	R4	決算	10	7		R4	決算			
		R5	予算	16	4		R5	予算			

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
		令和3年度	令和4年度
① 家庭療養指導人数	人	579	672
② 上記①にかかる年間経費	千円	16,338	15,931
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	28,218	23,707
備考 (算出についての説明等)			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、本来対応すべき家庭訪問による療養指導が十分に実施できない中、電話による家庭療養指導を積極的に行った。これにより単位あたりの経費が減少し、結果的に前年度と比べて費用対効果は上昇した。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 令和4年度も、コロナ禍のため訪問による療養指導が十分に実施できなかったが、代替手段として電話等を活用した家庭療養指導を前年度から継続的に実施し、呼吸器に基礎疾患を有するためコロナ禍で不安を募らせる公害認定患者の気持ちに保健師が寄り添い、患者の健康の回復、保持、増進に寄与した。